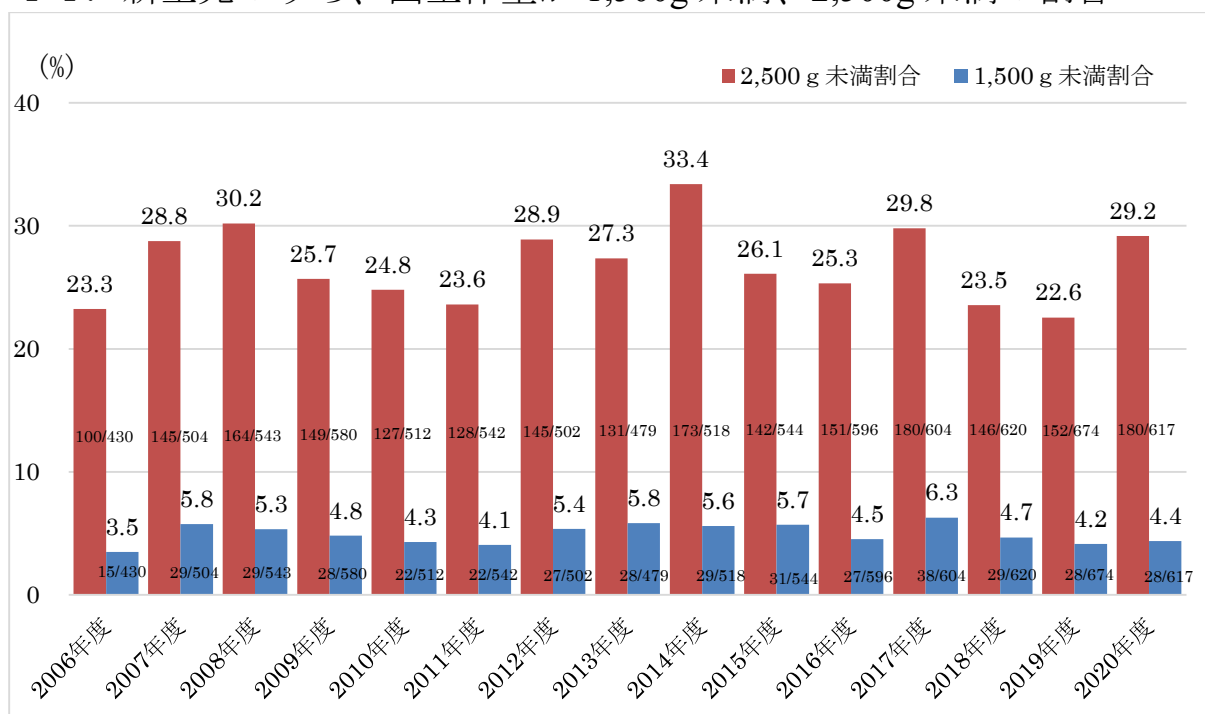


4.4. 新生児のうち、出生体重が1,500g未満、2,500g未満の割合



低出生児の割合は、病院の機能によりこの値が大きく異なるため、他施設とのベンチマークは望ましくないが、当院における出生体重が1,500g未満、2,500g未満の割合は、2006年以降14年間で、前者が3.5～6.3%、後者が23.3～33.4%と、概ね横ばいであった。

2020年度2500g未満の出生児の割合は29.2%となり、今年度はコロナ禍の影響で、自宅で過ごす妊婦の割合が増加したことも要因となり早産・低体重児の割合が減少したと考えられる。

データ提供 看護部 B-3 病棟 (産科)